

# 庄内地域における 「魅力ある学校」づくり 通信

第4号 平成29年(2017年)3月



これまで「魅力ある学校」づくり構想の検討状況説明会を順次開催してきました。その中で、教育内容、特に、施設一体型小中一貫校について、「よくわからない」「イメージが湧かない」等のご意見をいただいております。そこで、本号では、施設一体型小中一貫校などについて、ご紹介します。

## ○施設一体型小中一貫校について

施設一体型小中一貫校とは小学校と中学校の校舎の全部又は一部が一体的に整備されていて、小中一貫教育が行われている学校のことをいいます。

同じ施設、同じ敷地内に小学校と中学校があるので、9年間一貫性のある教育活動などを効果的に実施することが可能になります。一方、児童生徒は9年間同じ施設で学習・生活することになるため、児童生徒の発達段階などに応じた計画的な指導等が必要になります。

小中一貫教育を進めるにあたって、施設一体型の方がより大きな成果が認められるとともに、課題も少ないことにつきましては、通信の第2号でもご紹介しました。

文部科学省が平成26年(2014年)5月に行った「小中一貫教育等に関する実態調査」では、全国に施設一体型小中一貫校が148校あることが報告されています。

施設一体型小中一貫校は、大阪府内では、箕面市、池田市、大阪市、守口市、堺市等に、また、近隣の京都府、奈良県、兵庫県等でも設置されています。

豊中市教育委員会では、施設一体型である下記の2校へ視察に行ってきました。学校の様子や施設の工夫などを本号の2、3ページにまとめましたので、ご覧ください。

### 視 察 先

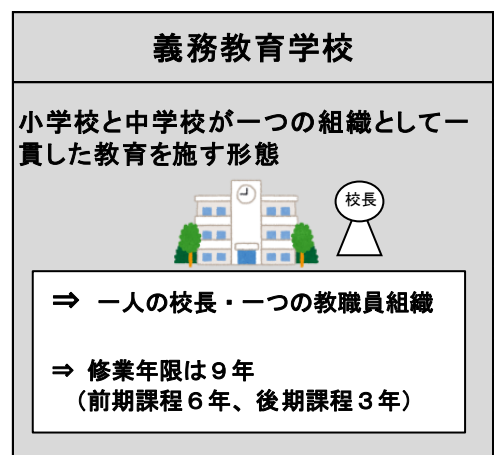
- ① 凌風学園(2ページ) …京都市立の施設一体型小中一貫校
- ② さつき学園(3ページ) …守口市立の施設一体型、大阪府内で初の義務教育学校

## 義務教育学校とは？

小中一貫教育にふさわしい運営体制を整えるために、これまでの小学校と中学校に加えて、新たな学校種である「義務教育学校」等の設置を可能とする改正学校教育法が平成28年(2016年)4月1日に施行されました。具体的に、義務教育学校はどのような学校なのか、特徴は以下のとおりです。

### <義務教育学校の特徴>

- 小中一貫教育の基本形として、一人の校長の下で一つの教職員集団が、一貫した教育課程を編成・実施する9年制の学校で教育活動を行う
- 修業年限は9年(前期課程6年、後期課程3年)
- 基本的には、それぞれ小学校および中学校の学習指導要領が準用される
- 一貫教育の軸となる、新教科等の創設や、学年段階間・学校段階間での指導内容の入替え等、一貫教育の実施に必要な教育課程上の特例を設置者の判断で実施することが認められている





・3小学校と1中学校を統合

・平成24年(2012年)4月に、施設一体型小中一貫校として開校

京都市立 凌風小学校・凌風中学校



※校舎イメージ図(京都市HPより)

学校規模	[小学校]18学級(492人)
	[中学校]9学級(256人)
	※学級数は通常学級数
指導区分	4-3-2
校舎構造	鉄筋コンクリート造 地上5階
敷地面積	13,500㎡
延床面積	16,100㎡

※平成28年(2016年)4月時点

◆ 図書室



高学年用の図書室は3階にあります。図書室に隣接して、自習コーナーや、コンピューターコーナーがあります。

◆ 図書コーナー



低学年用の図書コーナー(図書室)は2階にあります。くつろいで本を読むことのできるスペースもあります。

◆ コミュニケーションスペース



広いスペースや椅子を設けることにより、子どもたち同士が交流できる場となっています。

◆ 低学年の遊び場



低学年の子どもたちが安心して遊ぶことができるよう、プレイゾーンが設けられています。すべり台やアスレチック遊具等があります。

◆ 教室



教室の広さは、8m×9mと、ゆとりがあります。1階と2階の教室には、窓側に靴箱のスペース(シューズポケット)があります。

◆ 階段(2階バルコニー→1階)



1階の教室からはそのまま、2階の教室からは、シューズポケットから外へ出るとバルコニーがあり、バルコニーから階段を下りると、すぐにグラウンドへ出られます。

# ② さつき学園



・2 小学校と 1 中学校を統合

・平成 28 年（2016 年）4 月に、施設一体型の義務教育学校として開校

## 守口市立 さつき学園（義務教育学校）



※校舎イメージ図（守口市 HP より）

学校規模	[前期課程] 13 学級（417 人）
	[後期課程] 6 学級（171 人）
	[夜間学級] 5 学級（128 人）
	※学級数は通常学級数
指導区分	4-3-2
校舎構造	鉄筋コンクリート造 地上 5 階
敷地面積	17,415 m <sup>2</sup>
延床面積	14,392 m <sup>2</sup>

※平成 28 年（2016 年）5 月時点

### ◆ 教室



教室は広めに確保されています。教室の窓側にはワークスペースがあり、さまざまな学習形態を実現することが可能です。

### ◆ ワークスペース



ワークスペースには手洗い場があり、廊下に出なくても、水道を利用できます。教室間に扉があり、開ければとなりの教室へ移動できます。

### ◆ 自習スペース



廊下に自習スペースが設けられており、子どもたちが気軽に放課後学習や、友達と調べ学習等ができます。

### ◆ メディアコーナー



自ら進んで解決しようとする力を育成することを目的として、各教科のメディアコーナーが、校舎の様々な場所に配置されています。

### ◆ プール(屋上)



プールは屋上（5 階）にあり、大プール（左側、水深 1.1m）と小プール（右側、水深 0.8m）が設けられています。

### ◆ 体育館



体育館は、小アリーナ、中アリーナ、大アリーナと、3 つあり、学年や活動内容によって使い分けます（写真は大アリーナ）

## ○視察を終えて

両校とも、まずは特徴的な校舎（外見）に驚かされます。中に入ると、広い下足室（昇降口）、広い廊下、ゆったりとした教室、ゆとりのある多目的スペース、小学生用、中学生用それぞれに用意された大・小アリーナ（体育館）や図書室など、設計段階からさまざまな工夫が凝らしてあることが見てとれます。凌風学園の低学年の教室（1、2階）には靴箱があり、ベランダから運動場に直接出ることができます。また、さつき学園の教室はとても広く、教職員の作業スペースや子どもたちのワークスペース、さらに複数の教室をつなぐ長い通路（普段は扉で区切られています）などがあります。

視察中、授業風景も見せていただきましたが、どの学年の子どもたちも落ち着いて授業を受けていて、とてもいい雰囲気です。学年ごとに教室がまとまって配置され、複数学年が一つのフロアに配置されていますが、休憩時間に事故やトラブルが起こったりはしないそうです。廊下や階段も掃除が行き届き、みんなで大事に使っている様子もうかがえました。

守口市のさつき学園は、視察当時（昨年11月）も工事が続き、運動場が全く使えない状況でしたが、休憩時間、子どもたちは校舎内で過ごし、放課後の部活動は旧小学校跡地も活用しながら行っていたそうです。

ちなみに凌風学園も開校後しばらくは校舎横の運動場が使用できず、道路を渡り、旧小学校の運動場に移動して使用していたそうです。

これらの先進事例も参考にしながら、庄内地域の「魅力ある学校」づくりの検討を進めていきたいと考えております。

## ○説明会を振り返って

昨年11月から約20回、延べ660人の方に現時点の構想案を説明し、ご意見を伺ってまいりました。そのときにいただいたご意見も踏まえて、現在の検討ポイントをお伝えします。

### ①工事期間中の学校のあり方について

構想案では、平成32年（2020年）4月から野田小学校、第十中学校の敷地で分離型の小中一貫校（小学部・中学部）を仮開校し、工事完了後の平成34年（2022年）4月から施設一体型小中一貫校を開校することとしています。しかし、島田小学校の保護者、地域の方から「近くにある学校を閉じて、遠くの野田小学校（敷地）まで通わせる理由がわからない」「学年によっては、小学校6年間で3箇所に通わなければならない、負担に感じる」といったご意見をいただいております。現在、工事期間中の学校のあり方を再検討しています。

### ②通学距離について

説明会では多くの方から「通学距離が2kmになれば、1年生の子どもは40分ほどかかり、負担が大きい」「スクールバスを出すべき」といった意見をいただきました。北校の場合、稲津町2丁目から庄内小学校の敷地まで約2km（最長）、稲津町を除くと約1.5kmとなることから、稲津町の通学区域を再検討しています。

### ③放課後子どもクラブについて

放課後子どもクラブに関して、説明会では「冬場の午後5時は暗く、下校時の安全確保をどうするのか」といった意見をいただきました。現在、こども未来部において、下校時の安全確保について検討を進めています。



発行

豊中市教育委員会事務局 学校教育課

電話：06-6858-2705 F A X：06-6846-9649

E-mail：kyokeikaku@city.toyonaka.osaka.jp

